

My Chronicle

私の仕事

転換期や、思い出に残る過去の案件を伺いました。

Nネット本部理事 九州支部会長
株式会社園川組 代表取締役社長

園川 忠助さん

TADASUKE SONOKAWA



PROFILE:

大学卒業後、西松建設に就職し修業を積む。27歳で西松を退職。父が創立した株式会社園川組に入社し、平成11年、36歳で代表取締役社長に就任。竜門ダム、立野ダムなどのプロジェクト等に携わり土木・建築において重役を務めた事業展開を行う。趣味は上京した際の仕事仲間との、新橋での立ち飲み(笑)

Data

瀬戸石ダム

【所在地】 熊本県葦北郡芦北町大字海路(球磨川水系)

【諸元】 目的:発電

形式:重力式コンクリート 堤高26.5m 堤頂長139.4m 堤体積25千³

【工期】 本体工事:着手/1956年~竣工/1958年

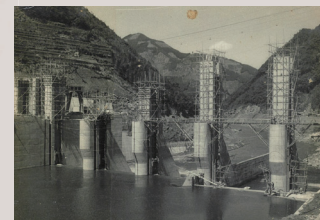
取水口・放水口・土砂除去工事:着工/2020年10月~竣工/2021年5月

Mission

先代である父は西松建設の特別下請けである堤島班に重量員として参加。球磨川水系の市房・瀬戸石・荒瀬ダム、暹洋・八の字堰に従事した後、昭和42年に有限会社園川組を設立しました。自分が携わった現場を自慢げに話す父の姿を見て、小さい頃からこの世界に憧れ、私もやってみたい!と思うように。大学卒業後、西松建設に入社し、土木・建築のキャリアをスタートさせました。私自身が西松建設のOBでありすが、西松は義理と人情に大変厚い会社。先輩方がつくってきた素晴らしい歴史と誇りがあります。その西松の新しい歴史作りに協力会社の一員として参加できるのが大変嬉しいです。

Why I chose this

今回取り上げた瀬戸石ダムは、昭和33年竣工で父が重量員として携わった現場です。昨年7月、熊本南部の豪雨被害で被災しましたが、親子2代で関わることができ、感慨深いと思っています。球磨川流域の豪雨により上下流の取水口、放水口からダムに流入した土砂の撤去作業のため、吸引車や特殊ポンプ(ボルテックスポンプ)を出动。潜水夫がダム内に潜っての作業となりました。水深5~10mになると視界がほとんどなく、水中カメラで確認しながらという過酷な環境に加え、土砂以外に長年沈殿した流木が多く、思うように吸引できずに大変苦労しました。吸引車から特殊ポンプへ施工機械を変更する時期が遅かったのも失敗したことのひとつ。また球磨川の鮎漁の関係で、短期決戦だったのが印象に残っています。そんな中、潜水夫は沖縄、鹿児島、神奈川から、吸引車は地元熊本、福岡、長崎からと、各地域の特徴が出た現場になり、交流を持つことができたのも楽しかったです。冬の潜水作業のため、暖を取る部屋を設けていただいたり、日曜出勤者のために昼食を配布してくださったりと、JV職員の方の気配りにも感謝しています。私の仕事上のモットーは「義理と人情と痩せ我慢」。辛いこと、大変なことがあってもこの言葉を胸に、これからも精進していきたいと思います。



「義理と人情と痩せ我慢」

この言葉を胸に

これからも精進していきたい!